

(お知らせ)

平成 23 年 10 月 4 日  
防 衛 省

### 米軍再編に係る訓練移転に関する平成 23 年度下半期計画について

米軍再編に係る訓練移転に関する平成 23 年度下半期（平成 23 年 10 月～平成 24 年 3 月）の訓練計画について、下記のとおり予定しています。

#### 記

- 1 米軍再編に係る訓練移転については、平成 23 年度下半期に 5 回程度の実施を目標に計画する予定です。そのうち、グアムへの訓練移転は、2～3 回程度の実施を目標に計画する予定です。
- 2 本年度の訓練移転計画については、米軍の運用上の理由等により変更となる場合があります。
- 3 なお、個々の訓練計画の概要（訓練規模、訓練期日等）については、決まり次第、関係自治体等にお知らせします。

(参考)

訓練移転元の米軍飛行場：嘉手納、岩国及び三沢飛行場

訓練移転先：千歳、三沢、百里、小松、築城及び新田原の各自衛隊基地並びにグアム

(お知らせ)

## 米軍再編に係る訓練移転の拡充について

平成23年10月4日  
防 衛 省

平成22年5月28日の「2+2」共同発表に基づき、二国間及び単独の訓練を含め、米軍の活動の沖縄県外への移転を拡充することについて協議を行い、本年1月20日に、日米合同委員会において、航空機訓練移転の米国施政下にある領域への拡充について合意がなされました。その後、同合意に従い、日米間で具体的な訓練実施に向けた詳細について調整を進め、本日(10月4日)、日米合同委員会において、次のとおり合意しました。

本合意に基づく訓練移転は、グアム等を訓練移転先とするものであり、嘉手納飛行場の航空機による訓練だけでなく、三沢及び岩国飛行場の航空機が嘉手納飛行場に飛来して実施している空対地訓練も移転の対象となり得るもので、同「2+2」共同発表に基づく、嘉手納における更なる騒音軽減に資する具体的な措置としても位置付けられるものです。

二国間及び単独の訓練を含め、米軍の活動の沖縄県外への移転の拡充を通じ、嘉手納における更なる騒音軽減を図るため、日米両国は、航空機訓練移転を実施するに当たり、嘉手納飛行場で実施予定であった訓練を、グアムを含む他の場所へ移転することに焦点を置いて計画し、また、航空機訓練移転を行う期間中、嘉手納飛行場における米軍の訓練活動の影響について配慮することとなります。

なお、グアム等への航空機訓練移転の個々の計画の具体的な内容については、日米間で調整の上、公表することとしています。

- 1 航空機訓練移転先  
航空機訓練移転は、グアム島のアンダーセン空軍基地及び北マリアナ諸島のファラロン・デ・メディニラ空対地射場とそれらの周辺区域を使用して実施される。
- 2 航空機訓練移転計画  
航空機訓練移転計画は、日米間で調整の上、日本国内の航空機訓練移転と併せて3月を目途に次年度の計画を公表する。
- 3 経費分担  
経費分担割合は、従来の航空機訓練移転と同様、おおむね、日本国政府約3/4、米国政府約1/4を基準とするが、2年程度を経過するごとに、嘉手納における騒音軽減の効果を含めグアム等への航空機訓練移転から生じる状況の変化を踏まえて見直す。

米軍再編に係る訓練移転の拡充について  
【平成23年1月20日日米合同委員会合意概要】

1 目的

- (1) 二国間の相互運用性を向上させる必要性に沿った訓練移転を実施するとともに、航空機訓練移転元となる米軍航空施設における訓練活動の影響を軽減する。
- (2) 二国間及び単独の訓練を含め、米軍の活動の沖縄県外への移転を拡充し、航空機訓練移転の改善を含む沖縄県外における二国間及び単独の訓練の拡充を通じ、嘉手納における更なる騒音軽減を図る。

2 内容

- (1) 現行の航空機訓練移転及び航空機訓練移転の拡充された航空機訓練移転の新たな移転先として、米国の施政の下にある領域を追加する。
- (2) 上記に係る訓練移転の内容は次のとおりである。
  - a 訓練には、日米両政府間での調整に基づき、共同訓練、米側による単独訓練、又は両者が含まれ得る。
  - b 訓練には、空対地訓練及び双方が合意したその他の訓練が含まれ得る。
  - c 1回当たりの米国戦闘機の数は、最大20機程度とする。
  - d 訓練移転を支援する航空機の機種は、空中給油機、輸送機、AWACS等を含むがこれに限定されない。
  - e 1回当たりの飛行訓練日数は、最大20日程度とする。当該日数については、航空機の展開・撤収は含まれない。訓練計画は、日米両政府間で調整される。

## ◆ 米軍再編に係る各基地の訓練移転経過 ◆

年度	基地名	訓練期間	参加規模(米軍)	訓練 タイプ	参加部隊	視察有無	備考
18	計 画	タイプⅠ(1回につき1～5機の米軍機が1日～7日間参加) タイプⅡ(1回につき6～12機の米軍機が8日～14日間参加)		: 1 2 回程度		H19.1.11に通知、3月を目途とし 回数不明記はないが1回と思われる	
	築 城	H19.3.5(月)～8(木)	F15×4機 54人	I	嘉手納	道の連絡会議 (道・苫小牧・千歳)	
	計	築 城:1回		I:1回	嘉手納:1回	1基地派遣	
19	計 画	タイプⅠ(1回につき1～5機の米軍機が1日～7日間参加) タイプⅡ(1回につき6～12機の米軍機が8日～14日間参加)		: 1 2 回程度 : 3 回程度		H19.1.31に通知	
	小 松	H19.5.16(水)～23(水)	F15×5機 約80人	I	嘉手納	2名派遣	19日土曜・20日日曜の訓練は行わ れていない。
	築 城	H19.6.18(月)～22(金)	FA18×5機 39人	I	岩国	無	
	三 沢	H19.7.16(月)～21(土)	F15×5機 約80人 F16×4機	I	嘉手納 三 沢	2名派遣	16日祝日・21日土曜の訓練は行わ れていない
	新田原	H19.9.3(月)～5(水)	F15×2機 14人	I	嘉手納	2名派遣	
	百 里	H19.10.15(月)～19(金)	F16×5機 77人	I	三 沢	2名派遣	
	小 松	H19.11.5(月)～16(金)	F15×12機 約180人	Ⅱ	嘉手納	無	F15事故調査のため中止
	百 里	H20.1.15(火)～18(金)	F16×5機 85人	I	三 沢	無	
	新田原	H20.2.12(火)～15(金)	FA18×2機 4人	I	岩国	無	
	千 歳	H20.2.25(月)～28(木)	FA18×4機 13人	I	岩国	2名派遣	悪天候のため午前1回2日の訓練
計	千 歳:1回 小 松:1回 三 沢:1回 築 城:1回 百 里:2回 新田原:2回 計:8回		I:8回 Ⅱ:0回	三 沢:3回 岩 国:3回 嘉手納:3回	5基地派遣		
20	計 画	タイプⅠ(1回につき1～5機の米軍機が1日～7日間参加) タイプⅡ(1回につき6～12機の米軍機が8日～14日間参加)		: 併せて10回程度		H20.6.20に通知	
	三 沢	H20.7.23(水)～30(水)	F15×6機 約80人	Ⅱ	嘉手納	2名派遣	26日土曜・27日日曜の訓練は行わ れていない。
	新田原	H20.9.2(火)～4(木)	F15×2機 18人	I	嘉手納	無	
	小 松	H20.12.1(月)～5(金)	F16×6機 約80人	Ⅱ	三 沢	無	
	千 歳	H20.12.8(月)～12(金)	F15×5機 72人	I	嘉手納	2名派遣	
	新田原	H21.2.23(月)～27(金)	F15×5機 81人	I	嘉手納	無	
計	千 歳:1回 小 松:1回 三 沢:1回 築 城:0回 百 里:0回 新田原:2回 計:5回		I:3回 Ⅱ:2回	三 沢:1回 岩 国:0回 嘉手納:4回	2基地派遣		
21	計 画	タイプⅠ(1回につき1～5機の米軍機が1日～7日間参加) タイプⅡ(1回につき6～12機の米軍機が8日～14日間参加)		: 1 2 回程度 : 3 回程度		H21.1.28に通知	
	千 歳	H21.4.20(月)～23(木)	FA18×5機 32人	I	岩国	2名派遣	
	三 沢	H21.7.25(土)～8.1(土)	FA18×7機 約70人	Ⅱ	岩国	無	7/25・26・8/1の土日の訓練は行わ れていない。
	百 里	H21.10.2(金)～10.9(金)	F15×5機 83人	I	嘉手納	無	機材の点検及び天候不良のため、訓練は 全て中止。テスト飛行1回のみ。
	小 松	H21.11.14(土)～11.20(金)	FA18×7機 F16×5機 約180人	Ⅱ	岩国 三 沢	無	7/14・15の土日の訓練は行われて いない。
	百 里	H22.1.29(金)～2.5(金)	F15×6機 87人	Ⅱ	嘉手納	無	1/30・31の土日の訓練は行われて いない。
	三 沢	H22.2.27(土)～3.12(金)	FA18×8機 約150人 F16×4機	Ⅱ	岩国	無	2/27・28,3/6・7の土日の訓練は行 われていない。 千歳基地F15が空域で訓練に参加
	築 城	H22.3.5(金)～3.12(金)	F16×5機 約90人	I	三 沢	無	3/6・7の土日の訓練は行われてい ない。
計	千 歳:1回 小 松:1回 三 沢:2回 築 城:1回 百 里:2回 新田原:0回 計:7回		I:3回 Ⅱ:4回	三 沢:2回 岩 国:4回 嘉手納:2回	1基地派遣		
22	計 画	タイプⅠ(1回につき1～5機の米軍機が1日～7日間参加) タイプⅡ(1回につき6～12機の米軍機が8日～14日間参加)		タイプⅠ・Ⅱあわせて15回程度		H22.1.29に通知	
	小 松	H22.6.5(土)～6.18(金)	FA18×10機 約180人	Ⅱ	岩国	無	6/12・13の土日の訓練は行われて いない。
	三 沢	H22.10.15(金)～10.23(土)	FA18×9機 約150人 (計画:10機 約160人)	Ⅱ	岩国	無	千歳基地F15が空域で訓練に参加 土日の訓練は行われていない。
	千 歳	H22.11.8(月)～11.19(金)	F15×12機 約170人 (計画:12機 約190人)	Ⅱ	嘉手納	2名派遣	三沢基地F2が空域で訓練に参加。 土日の訓練は行われていない。
	小 松	H22.12.1(水)～12.11(土)	F16×12機 約200人	Ⅱ	三 沢	無	日米共同統合演習の一部として実 施されたため土日の訓練有り。
計	千 歳:1回 小 松:2回 三 沢:1回 築 城:0回 百 里:0回 新田原:0回 計:4回		I:0回 Ⅱ:4回	三 沢:1回 岩 国:2回 嘉手納:1回			
23	計 画	下半期に5回程度を計画予定 そのうち、グアムへの訓練移転を2～3回程度を目標に計画予定				H23.10.4に通知	
	築 城	H23.7.8(金)～7.15(金)	F16×6機 約90人	Ⅱ	三 沢	無	7/9・10の土日の訓練は行われてい ない。
	グアム	H23.10.10(月)～10.31(月) (実績:H23.10.10～10.28)	FA18×20機 約400人	グアム	岩国	無	嘉手納飛行場で実施予定であった2週 間以上の訓練をグアムへ移転。
	グアム	H23.12.1(木)～12.18(日)	FA18×20機 約650人	グアム	岩国	無	嘉手納飛行場で実施予定であった訓 練をグアムへ移転。
	計	千 歳:0回 小 松:0回 三 沢:0回 築 城:1回 百 里:0回 新田原:0回 グアム:2回 計:3回		I:0回 Ⅱ:1回 グアム:2回	三 沢:1回 岩 国:2回 嘉手納:0回		

(お知らせ)

平成23年7月1日  
防 衛 省

米軍再編に係る三沢飛行場から築城基地への訓練移転（共同訓練）  
に関する訓練計画概要について

米軍再編に係る三沢飛行場から築城基地への訓練移転（共同訓練）に関する訓練計画概要について、以下のとおりとなりましたので、お知らせします。

- 期 間：平成23年7月8日（金）～15日（金）  
（但し、土曜日及び日曜日は訓練を行わない。）
- 参加部隊：〔米軍〕  
第35戦闘航空団（三沢）  
〔航空自衛隊〕  
第8航空団、西部航空警戒管制団、第2高射群
- 使用基地：築城基地
- 演練項目：戦闘機戦闘訓練等
- 使用訓練空域：九州北方空域、九州西方空域及び四国沖空域
- 参加規模：タイプII訓練  
〔米軍〕  
F-16×6機程度、人員約90名程度  
※人員、器材等輸送のため輸送機が飛来予定  
〔航空自衛隊〕  
F-15×4機程度、F-2×4機程度

以 上

問合せ先：

防衛省地方協力局地方調整課訓練調整室

室 長 山 田 幸 一

TEL 03-3268-3111(内線36264)

## 築城基地への訓練移転聴き取り調査結果について

### 1 訓練概要

- (1) 訓練時期 平成23年7月8日(金)～7月15日(金) ※土曜日及び日曜日には行わない
- (2) 訓練形態 タイプⅡ
- (3) 参加部隊 [米軍]第35戦闘航空団(三沢)  
[自衛隊]第8航空団(築城)、西部航空警戒管制団、第2高射群
- (4) 演練項目 戦闘機戦闘訓練等
- (5) 訓練空域 九州北方空域、九州西方空域及び四国沖空域
- (6) 参加規模 [米軍]F-16×6機程度、人員約90名(三沢)  
※人員、器材等輸送のため輸送機が飛来予定  
[自衛隊]F-15×4機程度、F-2×4機程度(築城)

### 2 調査結果

	九州防衛局	築上町	みやこ町
日米共同訓練に係る協定について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成19年2月26日締結 九州防衛局 築上町、行橋市、みやこ町</li> </ul> ※訓練移転開始当初から変更なし	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成19年2月26日締結 九州防衛局 築上町、行橋市、みやこ町</li> </ul> ※訓練移転開始当初から変更なし	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成19年2月26日締結 九州防衛局 築上町、行橋市、みやこ町</li> </ul> ※訓練移転開始当初から変更なし
住民周知について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・概略通知 6月17日</li> <li>・詳細通知 7月1日</li> </ul> ※概略通知 H22-16日前→H23-21日前  ※詳細通知 H22-4日前→H23-7日前	<ul style="list-style-type: none"> <li>・7月1日に地元基地対策委員会代表者へFAXで通知 (築城地区4名・八津田地区4名)</li> <li>・7月1日に議長・議会基地対策特別委員会委員長へ通知</li> <li>・7月4日ホームページに掲載</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・7月1日に地元基地対策特別委員会役員へ訓練計画の概要を通知</li> </ul> ※前回訓練時と同様
米兵の行動把握について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・築城基地内に現地連絡本部を設置</li> <li>・米軍人宿泊先:基地内約90名</li> <li>・米兵滞在期間は、築城駅周辺の夜間(19:00-24:00)巡廻を実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急連絡先を企画振興課長とした連絡体制</li> <li>・特別な行動把握体制は設けていない</li> </ul> ※前回訓練時と同様	<ul style="list-style-type: none"> <li>・役場内に特別な体制は設けていない</li> <li>・緊急連絡先を総合政策課長とした連絡体制をとった</li> </ul> ※前回訓練時と同様
騒音について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨時測定局 11箇所 (行橋市4箇所、築上町4箇所、みやこ町3箇所)</li> <li>・測定結果は地元自治体に報告(予定)</li> <li>・固定測定局6ヶ所で測定 (築上町2箇所、みやこ町2箇所、行橋市2箇所)</li> <li>・騒音苦情件数 0件</li> <li>・騒音結果(最大値(dB)) 米軍機 95 自衛隊機 93</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・訓練移転に対する特別な測定はしていないが、町内2箇所ですべて常時測定を行っている。</li> <li>・九州防衛局が11箇所ですべて測定 (行橋市4箇所、築上町4箇所、みやこ町3箇所)</li> <li>・騒音苦情件数 0件</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町独自の調査はしていない</li> <li>・防衛局の臨時測定局3ヶ所で測定</li> <li>・測定結果は訓練終了後、防衛局より受領予定</li> <li>・騒音苦情件数 0件</li> </ul>

(お知らせ)

平成23年10月4日  
防 衛 省

米軍再編に係る岩国飛行場からグアム等への訓練移転に関する  
訓練計画概要について

米軍再編に係る岩国飛行場からグアム等への訓練移転（単独訓練）に関する訓練計画概要について、以下のとおりとなりましたので、お知らせします。

グアム等への訓練移転は、昨年5月28日の「2+2」共同発表に基づく、嘉手納における更なる騒音軽減に資する措置であり、今回の訓練移転は、当初、嘉手納飛行場で実施予定であった岩国飛行場の航空機による2週間以上の訓練を、グアム等へ移転することを計画するものです。

今回計画された訓練移転は、本年10月4日に日米合同委員会で合意後、初めて実施されるものであり、日米両政府の緊密な協力関係により実現するものです。

- 期 間：平成23年10月10日（月）～10月31日（月）
- 参加部隊：第12海兵航空群（岩国）
- 使用基地等：グアム島のアンダーセン空軍基地及び北マリアナ諸島のファラロン・デ・メディニラ島
- 演練項目：戦闘機戦闘訓練、空対地射爆撃訓練等
- 参加規模：FA-18×20機程度、人員約400名程度

以 上

(お知らせ)

平成23年11月25日  
防 衛 省

米軍再編に係る岩国飛行場からグアム等への訓練移転に関する  
訓練計画概要について

米軍再編に係る岩国飛行場からグアム等への訓練移転(単独訓練)に関する訓練計画概要について、以下のとおりとなりましたので、お知らせします。

今回の訓練移転は、当初、嘉手納飛行場で実施予定であった岩国飛行場の航空機による訓練を、グアム等へ移転することを計画するものです。

- 訓練期間：平成23年12月1日(木)～12月18日(日)
  - 参加部隊：第12海兵航空群(岩国)等
  - 使用基地等：グアム島のアンダーセン空軍基地及び北マリアナ諸島のファラロン・デ・メディニラ島
  - 演練項目：戦闘機戦闘訓練、空対地射爆撃訓練
  - 参加規模：FA-18×20機程度、空中給油機×1機等  
人員約650名程度
- ※ 本内容については、今後、変更される場合があります。

以 上

## 米軍再編に係る訓練移転に関する沖縄県の負担軽減調査結果

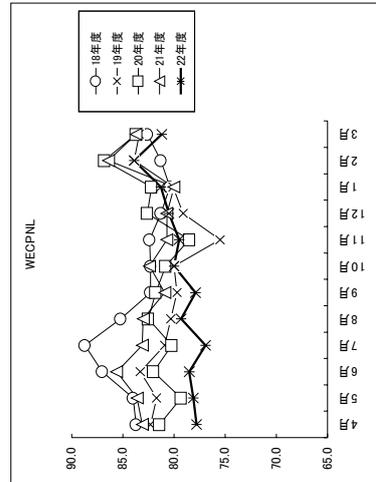
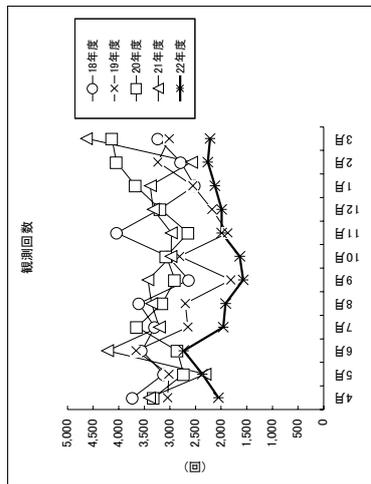
照 会 項 目	沖 縄 市	嘉 手 納 町	北 谷 町	備 考
(1) ・平成22年度の環境基準超過日 数を教えてください。 (21年度分は前回の調査結果)	平成 21 年度 市内の4ヶ所の測定局 459日	町内の4ヶ所の測定局 1,118日	町内の4ヶ所の測定局 558日	
	平成 22 年度 市内の4ヶ所の測定局 377日	町内の4ヶ所の測定局 1,089日	町内の4ヶ所の測定局 485日	
2 カ 年 度 の 比 較	-82 日	-29 日	-73 日	
(2) ・平成22年度に嘉手納基地へ飛来した外 来機の機数につきまして、把握されてお りましたら教えてください。	当市において外来機は数えて おりませんが、沖縄防衛局の 情報や、新聞報道等により把 握した平成22年度の外来機数 は、約1187機です。	嘉手納町基地遊外課職員の 目視調査、新聞等の情報を基 としています。 ・平成18年度 61機 ・平成19年度 42機 ・平成20年度 105機 ・平成21年度 358機 ・平成22年度 252機	外来機については、特定の訓 練以外は事前通告も無く飛来 することから、把握すること は困難な状況です。	
(3) ・平成22年度は嘉手納基地から千歳基地 へ1回の訓練移転が実施されております が、過去の訓練移転実施を含め、貴市へ の負担が軽減されたとお考えですか。	訓練移転が実施されても、年 間を通して外来戦闘機の飛来 により訓練が行われ、騒音が 激化している状況があり、負 担軽減されたとは考えられて いません。	平成22年度の訓練移転時の 騒音発生回数に関しては若干 の減少が見られるが実感とし て負担軽減は感じられない。	嘉手納基地には国内外問わず 他基地所属の外来機が頻繁に 飛来し、ほぼ常駐状態で米本 国以外では配備がないといわ れているF22の移駐も一時的と 言いながら何回も行われてい る現状であり、住民が実感で きる真の負担軽減にはなって いません。 また、平成22年度から今年度 にかけて、嘉手納飛行場の滑 走路修復工事が行われており 、航空機の訓練等による騒音 レベルは減少しているとは思 いますが、本町の隣にある宜 野湾市普天間飛行場が、訓練 のダイバード先になっており 、北谷町は阿基地から発生す る騒音が町民生活に様々な影 響を及ぼしています。 したがって、訓練移転の 効果は現れておらず、米軍再 編で言われた負担軽減とはほ ど遠く、逆に基地の強化につ ながる負担が増加しています。	

# 嘉手納基地周辺地域騒音測定結果および嘉手納基地外来機数

## 基地周辺地域騒音測定結果

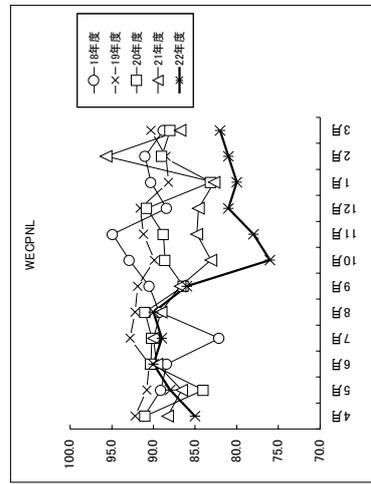
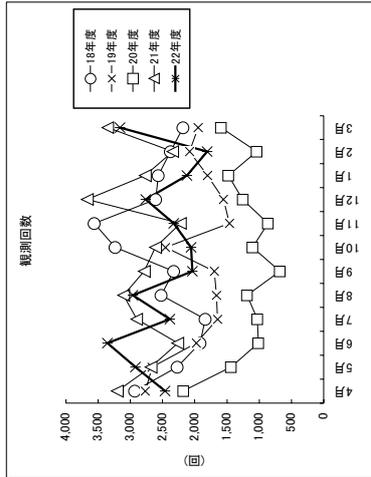
### 嘉手納測定局名: 豊良B

観測回数	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
4月	3,726	3,044	3,323	3,399	2,054
5月	3,119	3,021	2,730	2,313	2,365
6月	3,549	3,660	2,854	4,217	2,730
7月	3,293	2,649	3,645	3,206	1,959
8月	3,602	2,700	3,152	3,357	1,912
9月	2,629	1,810	2,904	3,427	1,568
10月	3,046	2,814	3,073	2,979	1,636
11月	4,034	1,872	2,645	2,971	1,990
12月	3,201	2,179	3,185	3,327	1,991
1月	2,515	2,551	3,674	3,383	2,122
2月	2,786	3,236	4,042	2,579	2,261
3月	3,231	3,013	4,130	4,627	2,218



### 北谷町 測定局名: 砂辺

観測回数	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
4月	2,933	2,767	2,179	3,201	2,461
5月	2,269	2,661	1,439	2,679	2,918
6月	1,917	1,975	1,016	2,262	3,355
7月	1,836	1,645	1,031	2,900	2,386
8月	2,519	1,663	1,188	3,103	2,959
9月	2,327	1,695	661	2,783	2,036
10月	3,234	2,452	1,103	2,609	2,057
11月	3,557	1,461	865	2,222	2,324
12月	2,608	1,555	1,256	3,667	2,762
1月	2,565	1,802	1,479	2,768	2,119
2月	2,378	2,080	1,040	2,342	1,807
3月	2,184	1,948	1,594	3,349	3,158



嘉手納基地への外来機数(目視情報)

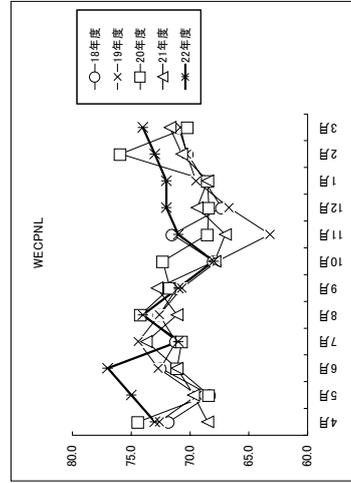
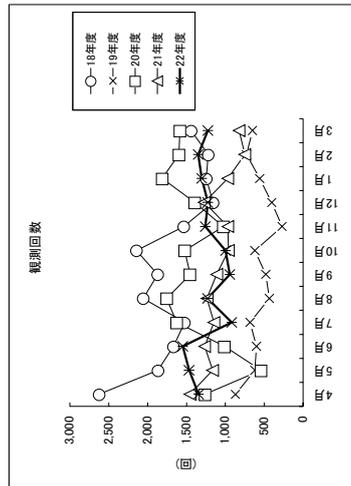
H16年度	205機
H17年度	89機
H18年度	61機
H19年度	42機
H20年度	105機
H21年度	358機
H22年度	252機

※H19は、1月から12月まで北側滑走路工事のため閉鎖  
 ※F15戦闘機不具合のため約3ヶ月飛行停止  
 ※H22.10～24.3まで2本の滑走路工事

沖縄市 測定局名:知花

観測回数	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
4月	2,622	870	1,260	1,455	1,344
5月	1,866	620	540	1,164	1,467
6月	1,668	600	1,011	1,266	1,548
7月	1,525	682	1,627	1,147	919
8月	2,058	434	1,755	1,236	1,230
9月	1,869	480	1,454	1,111	944
10月	2,145	620	1,524	961	997
11月	1,536	270	1,025	988	1,257
12月	1,159	403	1,395	1,272	1,227
1月	1,246	558	1,811	968	1,304
2月	1,220	728	1,599	750	1,348
3月	1,438	651	1,585	824	1,223

WECPNL	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
4月	71.8	72.6	74.4	68.5	73.0
5月	68.3	69.4	68.4	69.7	75.0
6月	72.5	72.7	71.1	71.1	77.0
7月	71.2	74.4	70.7	73.7	71.0
8月	72.6	72.6	74.2	71.1	74.0
9月	71.1	70.7	71.7	72.8	71.0
10月	68.0	67.7	72.3	67.9	68.0
11月	71.5	63.2	68.5	67.0	71.0
12月	67.3	66.7	68.4	69.4	72.0
1月	68.8	69.5	68.5	68.5	72.0
2月	70.2	70.3	75.9	70.7	73.0
3月	71.0	70.8	70.2	71.7	74.0



(お知らせ)

平成23年7月5日(1  
130現在)

## 那覇基地所属F-15Jの レーダー航跡からの消失について(第1報)

本日7月5日1033頃、那覇基地所属のF-15Jがレーダー航跡から消失しました。

- 1 発生日時  
平成23年7月5日(火)10時33分頃
- 2 発生場所  
那覇から325° 100マイル
- 3 部隊名  
航空自衛隊 第83航空隊 第204飛行隊
- 4 操縦者  
3等空佐 川久保 裕二 (37歳)
- 5 機種、機数等  
F-15J×1機
- 6 操縦者の状況  
詳細については確認中です。
- 7 部外への被害状況  
詳細については確認中です。

[※ F-15Jの諸元](#)

(お知らせ)

平成23年7月5日(1  
303現在)

## 那覇基地所属F-15Jの レーダー航跡からの消失について(第2報)

---

### 1 事案の概要

本日10時33分頃、那覇基地所属(第83航空隊第204飛行隊)のF-15の飛行訓練中、緊急信号を発信した後、レーダーからロストした。

(細部)

09時59分頃 4機編隊の1番機として戦闘機戦闘訓練のため、那覇飛行場を離陸

10時33分頃 事案発生

10時46分頃 僚機が破片らしきものを確認。

11時12分頃 F-15の垂直尾翼を発見。

11時39分頃 スピード・ブレイキ及び尾翼の一部を発見

### 2 推定原因

確認中

### 3 操縦者の状況

未だ発見できていない。

### 4 搜索状況

現在、航空自衛隊のU-125A×1、UH-60J×1

海上自衛隊のP-3C×1、SH-60×2

(お知らせ)

23. 7. 12

航空幕僚監部

### F-15の飛行訓練の再開について

航空自衛隊は、7月5日(火)に発生した那覇基地所属のF-15(879号機)の墜落事故にかんがみ、同型機による飛行訓練を見合わせておりました。

航空自衛隊は、事故の再発防止を期し、操縦者に対する安全教育を徹底するとともに、同型機の健全性を確認するための点検を実施してきましたが、所要の教育を完了するとともに、可動機全機の点検を完了し、異常がないことが確認できたことから、同型機による飛行訓練を7月12日(火)以降、順次、再開することとしました。

#### 1 本件に関し判明した事項等

- (1) 7月5日(火)0959頃、戦闘機戦闘訓練のため、那覇飛行場を離陸
- (2) 1029頃、訓練空域において、当該機と思われる戦闘中止の無線通信があり、その後、僚機が海上に白煙を視認し緊急状態を宣言
- (3) 1033頃、レーダーからの機影消失を確認
- (4) 1722頃、海自「はるゆき」が垂直尾翼1枚を收容、当該機の機番を確認

#### 2 操縦者に対する安全教育の内容

「G-LOC(高Gによる意識喪失)」「空間識失調」「アンコントロール」  
「緊急事態における編隊内及び空地連携」「過去の重大事故に関する教訓」等

#### 3 F-15型機に対する点検の内容

操縦系統、エンジン系統、耐G系統及び警報系統等の点検、燃料・作動油等の漏洩点検

## 航空事故調査結果について

### 1 事故の概要

- (1) 発生部隊：第83航空隊第204飛行隊
- (2) 事故機の種類、機番：F-15J型機（72-8879号機）
- (3) 事故機操縦者：2等空佐 川久保 裕二
- (4) 事故発生の日時、場所  
平成23年7月5日(火)10時29分頃、那覇基地の北西約200km
- (5) 経過概要
  - ア 事故機は、対戦闘機戦闘訓練のため、9時59分頃、那覇飛行場を離陸
  - イ 当該訓練実施中、10時29分頃、当該機から戦闘中止の無線連絡があり、その後、僚機が海上に白煙を視認し緊急状態を宣言
  - ウ 10時30分頃、レーダーからの機影消失を確認

### 2 事故の原因等

- (1) 事故の原因  
本事故は、事故機操縦者が対戦闘機戦闘訓練中、降下旋回の後、深い降下角の状態から回復できなかつたため、海面に衝突したものである。
- (2) 分析の要約  
本事故に影響を及ぼした要因としては、事故機操縦者が高G機動(※)を実施した際に、意識喪失又はそれに近い状態に陥っていたことが考えられ、また、操縦者に重篤な疾患が突発的に発生したことによる意識の低下の可能性も考えられるが、いずれかは特定できなかった。  
※高G機動  
Gとは重力加速度のことで、高G機動とは、高速度における旋回など、操縦者に高い加重負担がかかる行動を行うこと。

### 3 事故防止に関する意見

- (1) 耐G性の維持、向上
- (2) 体調(健康)管理
- (3) 訓練管理
- (4) 上空と地上、搭乗員、編隊間の連携による対処

(お知らせ)

23.10.7

航空幕僚監部

本日10月7日08時45分頃、小松基地所属のF-15Jが小松飛行場へ着陸する直前に、機体から物体が落下したことが確認されました。

着陸した当該機を目視点検したところ、左翼側機外燃料タンク1本が無くなっていることが確認されました。

現在、細部確認中です。

- 1 発生日時  
平成23年10月7日(金)08時45分頃
- 2 発生場所  
小松飛行場の北北東約4km付近
- 3 部隊名  
航空自衛隊 第6航空団 第306飛行隊
- 4 機種、機数等  
F-15J×1機
- 5 部外への影響  
詳細については確認中です。

(お知らせ第2報)

23. 10. 7  
航空幕僚監部

小松基地所属F-15の機外タンク落下について

1 事案の概要

本日10月7日08時45分頃、小松基地所属のF-15Jが小松飛行場へ着陸する直前に、機体から物体が落下したことが確認されました。

着陸した当該機を目視点検したところ、左翼側機外燃料タンク1本が無くなっていることが確認されました。

2 推定原因

確認中

3 当該タンク等の落下地点

能美市山口町翠ヶ丘浄化センター付近

4 落ちていた場所及び物

場所	物
能美市山口町翠ヶ丘浄化センター敷地内	・機外タンクの先端部分 ・空対空模擬ミサイルの後翼部分
翠ヶ丘浄化センターと高速道路の間	・機外タンク後方4分の1部分

5 機外タンクの概要

(1) 長さ約0.6m、幅約0.8m

(2) 重さ約155kg

6 地上の被害状況

現在のところ人的・物的被害は確認されていない。

(お知らせ)

23.10.20  
航空幕僚監部

## F-15機外タンク落下事故に関する調査の中間公表について

航空自衛隊は、10月7日(金)に発生した小松基地所属のF-15の機外タンク落下事故について、事故発生当日から現地調査を実施してまいりました。

事故機から落下した左機外タンクについては、回収された部品を元に調査を行っておりますが、一部未発見の部品もあることから、構成部品全ての状況を確認した上での分析には至っておりません。

また、回収済みの部品についても、今後、製造業者等における分解検査等による調査を行う予定であることから、本公表における分析は中間段階であり、事故原因の特定には至っておりません。

しかしながら、事態の重要性にかんがみ、現地での調査において判明している事項等を本日公表いたします。

### 1 今回の調査実施概要

- (1) 機体及び回収品の確認
- (2) 関係者からの聞き取り(当該機操縦者、僚機操縦者等)
- (3) 当該機のフライトデータレコーダー等のデータ収集等
- (4) 当該機の整備記録の収集等
- (5) 気象、管制関連データの収集等
- (6) 当該機の燃料系統の機能試験
- (7) 当該機操縦者の健康状況、心理状況の確認

### 2 これまでに判明した事項等

- (1) 左機外タンクは破裂等(爆発を含む)の衝撃破壊の可能性が高し。このような衝撃破壊の原因としては、タンクの過加圧、静電気又は配線短絡による発火などが想定可能
- (2) 操縦者による機外タンクの投棄操作は行われず
- (3) 当該機本体については、燃料供給に係る電気系統の点検及びエンジン試験運転による加圧系統点検で異常のないことを確認

### 3 現地調査の結果を踏まえた今後の対応

- (1) 機外タンク及びパイロンについては、分解検査等を通じて更に分析予定
- (2) これまでに収集したデータ及び回収品並びに関係者に対する聞き取り等に関する精査

(お知らせ)

23. 10. 28  
航空幕僚監部

### F-15の飛行訓練について

- 1 航空自衛隊は、10月7日(金)に発生した小松基地所属のF-15(964号機)の機外タンク落下事故の重大性にかんがみ、同型機による飛行訓練を見合わせておりました。

一方、航空事故調査委員会を設置し、現地調査を完了の上、事故機のF-15機体本体については、今般発生した事故に係る原因は無い旨、去る20日に中間公表しました。

(参考) 中間公表のポイント

- (1) 左機外タンクは破裂等(爆発を含む)の衝撃破壊の可能性が高く、その原因としては、タンクの過加圧、静電気又は配線短絡による発火などが想定可能
- (2) 操縦者による機外タンクの投棄操作なし
- (3) 当該機本体については、燃料供給に係る電気系統の点検及び加圧系統の点検で原因がないことを確認

- 2 また、10月27日までに、F-15可動機全機の特別点検を完了し、異常がないことを確認し、整備員・操縦者に対する再発防止のための所要の安全教育を完了しました。これらを踏まえ、同型機による機体のみ(パイロン及び機外タンクなし)の飛行訓練には問題がないことを確認したことから、今後、F-15が配備されている基地周辺の自治体に御理解を得るべく御説明の上、飛行訓練の再開をしたいと考えています。

なお、パイロン及び機外タンクについては、引き続き調査・分析を進めて参ります。

○ F-15型機可動機全機に対する特別点検の内容

- (1) 燃料供給に係る電気系統の点検
- (2) エンジン試験運転による加圧系統の点検

○ 整備員及び操縦者に対する安全教育の内容

- (1) 燃料系統及び機外タンク等の構造、整備要領
- (2) 外装物に係る通常手順及び緊急手順
- (3) 燃料系統故障時の緊急手順
- (4) 不時落下防止施策・過去事例とその教訓 等

## F-15 機外タンク落下事故に係る調査結果等について

### 1 事故の概要

- (1) 発生日時等：平成23年10月7日（金）8時45分頃 晴れ
- (2) 発生場所：航空自衛隊小松基地から北北東約4kmの北陸自動車道付近の民家の周辺、翠ヶ丘浄化センターの屋上と敷地内及び周辺等
- (3) 発生部隊：第6航空団 第306飛行隊
- (4) 機種・機番：F-15J型機（82-8964号機）
- (5) 経過概要
  - ア 事故機は、対戦闘機戦闘訓練のため、8時6分頃、小松飛行場を離陸
  - イ 空域での訓練を終え帰投し、小松飛行場への着陸態勢に入って間もない、8時45分頃、事故機操縦者は左後方から「バン」という音と、機体後方に発生する炎を認識した直後、コックピット内のバックミラーにより数個の物体が機体の後方へ落下していくのを視認
  - ウ 事故機操縦者は、緊急状態を宣言し、8時46分頃、小松飛行場に着陸
  - エ 上記（2）の発生場所において、機外タンク等の残骸を複数発見し回収

### 2 事故の原因等

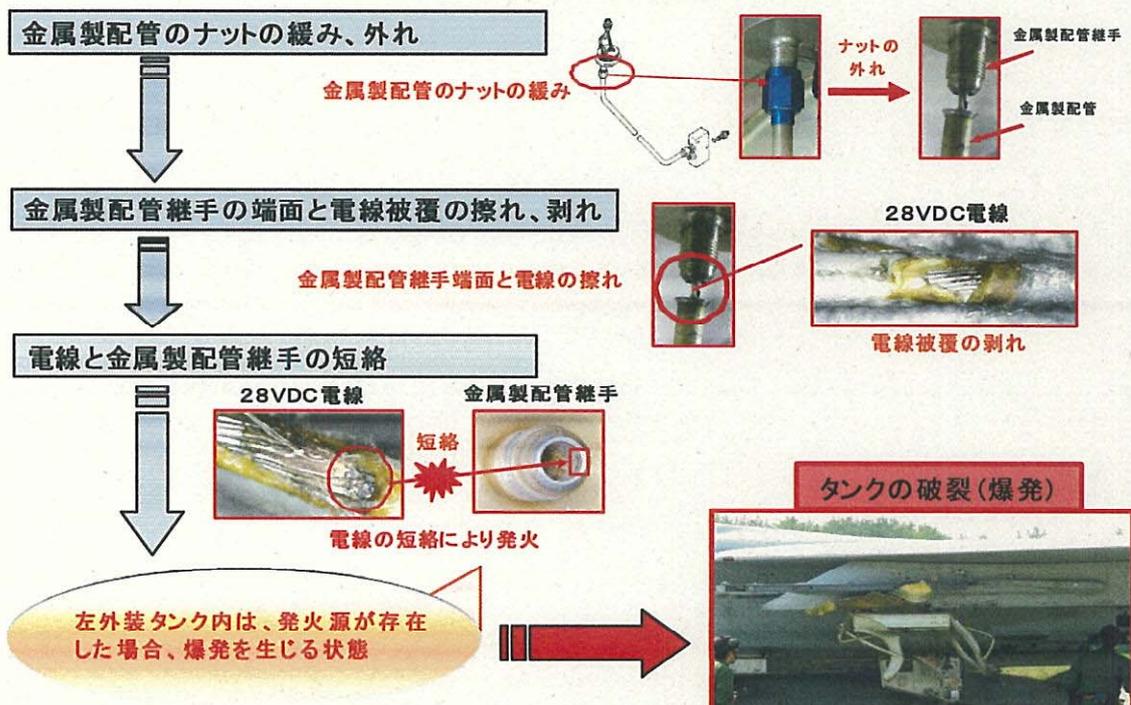
#### (1) 事故の原因

左機外燃料タンク内の電磁開閉弁に繋がる電線が、電磁開閉弁関連部品の一つである金属製配管継手と短絡（ショート）して発火し、燃料タンク内の可燃性ガスに引火した結果、当該燃料タンクが破裂（爆発）したものである。

#### (2) 本事故発生 of 要因

当該タンク内の電磁開閉弁への電線を保護している金属製配管と金属製配管継手を接続するナットが機体振動等により外れたため、電磁開閉弁への電線と金属製配管継手端面が擦れ、電線の絶縁被覆に剥がれが生じたことによる。

### 事故の発生過程



3 再発防止策（事故防止方法に関する意見）

（１）機外燃料タンクの整備要領の検討

ア 定期的な点検

イ 組立前の構成品の取り付け状況の確認

（２）航空機の外装品搭載状態に応じた教育

ア 関連する機器の特性、システムの動作

イ 事故調査結果を踏まえた過去事例の教訓等

## 平成 2 4 年度 再編交付金予定事業

(単位：千円)

事 業 名			事 業 費 (H23.12)
植 苗 ・ 美 沢 地 区	植苗・美沢地区コミュニティバス運行事業	【当初】	25,000
	親水公園・カヌーポート設置事業	【当初】	64,136
	小 計		89,136
沼 ノ 端 地 区	第24小学校留守家庭児童教室整備事業	【当初】	47,000
	第24小学校教育用コンピューター整備事業	【当初】	8,000
	沼ノ端コミュニティセンター改修事業(体育館補修・非常用発電)	【当初】	4,299
	小 計		59,299
勇 払 地 区	勇払パークゴルフ場用地取得事業(5ヵ年事業の3年目)	【当初】	10,000
	勇払公民館備品購入事業	【当初】	1,740
	小 計		11,740
三 地 区 含 む 共 通	小中学校耐震診断事業(2ヵ年事業の2年目)	【当初】	43,000
	小 計		43,000
	共 通		
共 通	任意予防接種助成事業	【補正】	10,000
	苫小牧市立病院医療機器整備事業	【補正】	10,000
	小 計		20,000
合 計			223,175

再編交付金額 223,175千円

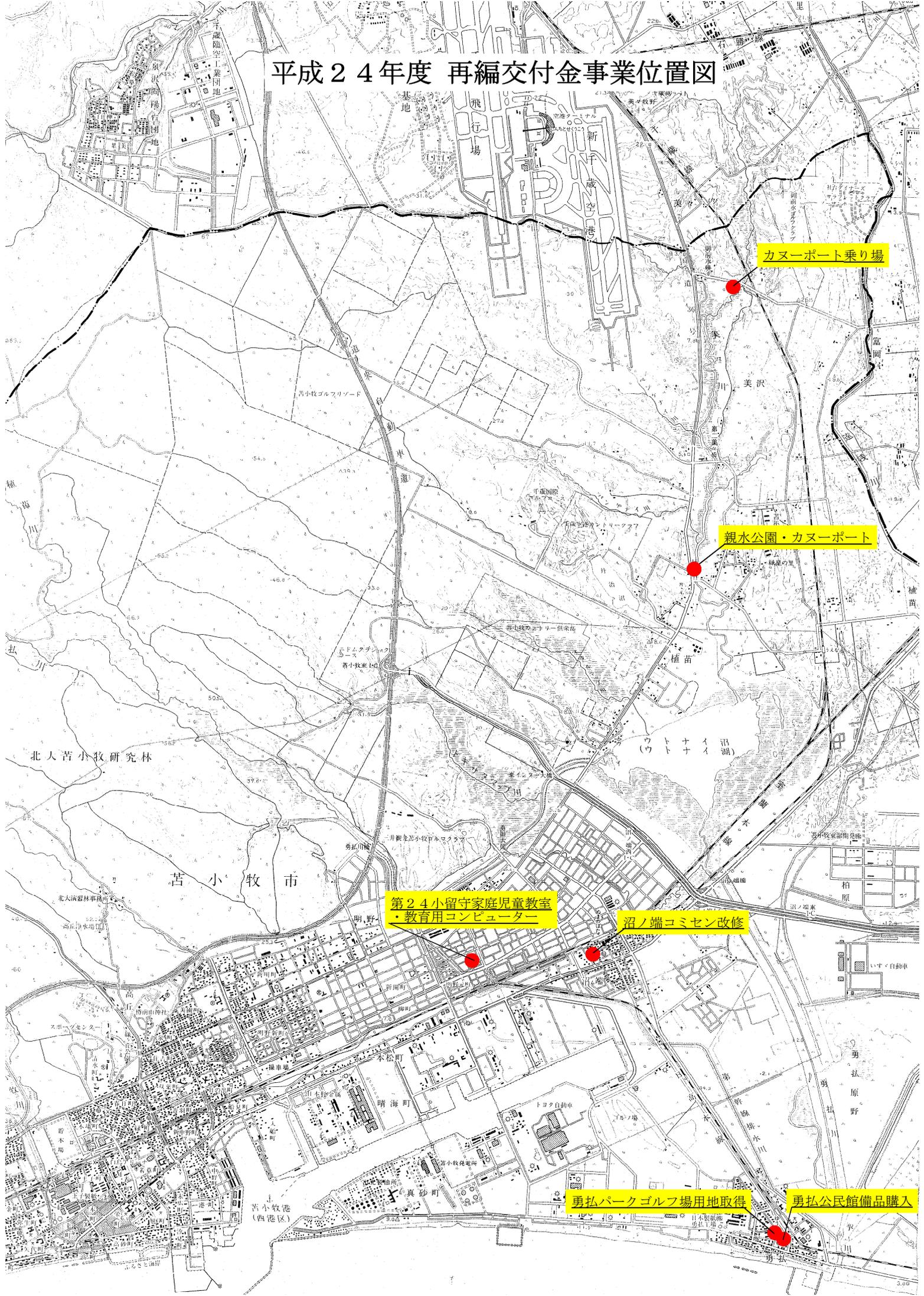
## 平成23年度 再編交付金実施状況

(単位：千円)

事業名		事業費
植苗・美沢地区	植苗・美沢地区コミュニティバス運行事業 (済)	25,000
	親水公園・カヌーポート設置事業(実施設計・用地買収)	9,237
	植苗ファミリーセンター備品購入事業【陶芸釜等】 (済)	2,160
	植苗ファミリーセンター浴室改修事業	8,930
	小計	45,327
沼ノ端地区	沼ノ端南10号公園再整備事業 (済)	25,290
	沼ノ端小学校講堂電気設備改修事業	8,600
	沼ノ端中学校講堂内装改修事業	10,800
	小計	44,690
勇払地区	勇払小学校トイレ改修事業 (済)	28,700
	勇払パークゴルフ場用地取得事業	10,000
	小計	38,700
三地区含む共通	小中学校耐震診断事業【植苗小中・沼ノ端中・勇払小含む】	49,400
	小計	49,400
共通	中央図書館図書整備事業	4,500
	任意予防接種助成事業 (済)	5,000
	苫小牧市立病院医療機器整備事業	29,575
	航空機騒音監視システム整備事業	5,983
	小計	45,058
合計		223,175

再編交付金額 223,175千円

# 平成24年度 再編交付金事業位置図



カヌーポイント乗り場

親水公園・カヌーポイント

第24小留守家庭児童教室  
・教育用コンピューター

沼ノ端コミセン改修

勇払パークゴルフ場用地取得

勇払公民館備品購入